

がんセンターだより

第 25 号

平成22年7月1日 発行

— 発行 —
埼玉県立がんセンター
発行責任者
病院長
田部 井 敏 夫

基本
理念

“唯惜命”

私達は生命の尊厳と倫理を重んじ、十分な医療情報提供と患者さんの自己決定権を尊重し博愛と奉仕の精神で医療を行います。

新病院長のご挨拶

今年も天候不順のせいもあり、いつもより長い間桜を楽しむことができましたが、去年の桜よりこころなしか色の淡さが目立ったような印象を受けました。5月になり、青空の中に新緑が眩しいくらい映え、初夏の訪れを感じる季節となっています。今年も74名の方々が新たにがんセンターに来られましたが、新人には迷路のような構造の病院にも慣れてきた頃と思います。私が昭和52年3月に就職した頃は、本館だけですっきりとした病院でしたが、県民のニーズに応えるため南館、東館と増設を重ね、今や400床のがん専門病院となって、埼玉県だけでなく日本のがん医療の向上に貢献しています。近年病院の老朽化が著しい事もあり、平成25年に500床の新たな病院の開設を目指し計画が着々と進んでいます。がんセンターが規模拡大を強いられる裏には、高齢化時代の到来と共にがんの罹患率が高くなり、今や国民の3人に1人ががんで亡くなる時代の趨勢があります。私が医者になり立ての頃は、がんの診断と治療は取り立てて注目を集めていた訳ではなく、国立がんセンターでも、がんの早期発見は胃の二重造影法が幅を利かせており、内視鏡はまだまだの状態であったように覚えています。この40年近くの間医療機器の発展はめざましく、がんの診断は飛躍的に進歩しています。例えばCTは1972年にアメリカで稼働し始めましたが、私が1975年にボルティモアのジョーンズ・ホプキンス大学を見学に行った折にCTの説明を受け感動し、帰国後雑誌に紹介記事を書きました。同じ年に東京女子医大が日本で最初にCTを搬入しています。昭和50年以前に医師になった人たちはCTを知らない世代でした。今ではCTの数は日本が世界一で、小規模の病院にも設置されているようです。早期診断が難しかった30-40年前は、がんと言われたら死を宣告されたのに等しいくらいでした。しかし、がん予防、早期診断の推進や緩和ケアの普及など、国を挙げてのがん対策（対がん10カ年総合戦略の継続やがん対策基本法の制定など）に取り組んだ結果が徐々に出来て来ると思います。最近では、がん患者さんの6割はがんを乗り越えサバイバーとなっていますが、がんは手強くまだまだ撲滅への道は遠いようです。このような状況の中、我ががんセンターは病院と研究所がタイアップし、発がん機序の解明から最新の機器を駆使した診断、体に侵襲の少ない縮小手術や放射線治療、標準的治療から治験を含む先進的な薬物治療、そして治療初期からの緩和ケアの導入など全人的ながん医療をチームで推進しています。これからも県民が望む高度先進医療とやさしい医療を全うするよう努力していくつもりであります。



病院長
田部 井 敏 夫



目次

- 新病院長のご挨拶..... 1
- 日本一やさしい病院をめざして..... 2
- 薬剤部の紹介..... 3
- 第1回埼玉県民がんフォーラムの開催..... 4



埼玉県のマスコット
コバトン

日本一やさしい病院をめざして

がん患者さんやそのご家族の多くは、様々な不安などを抱えながら通院や入院をされています。少しでも患者さんにとって癒される、日本一やさしい病院をめざして、医療サービス向上委員会は活動しています。患者さん第一に考えて行動をするためには、患者さんやご家族の真の声に耳を傾けることが必要だと実感しています。その一つとして病院長への手紙があります。すべての声に対応することができないこともありますが、前向きに検討をさせていただいております。昨年度は東館玄関の階段に手すりや東館2階に授乳室を設置しました。これはすべて患者さんの声への対応です。また、初めてがんセンターを訪れた患者さんやご家族が少しでも不安なく受診ができるように、問診デスクを設置し、看護師を配置することにしました。また、がんセンター内では多くのボランティアの方々が様々な場所で、患者さんにやさしい対応をしてくださっています。



医療サービス向上委員会委員長
看護部長

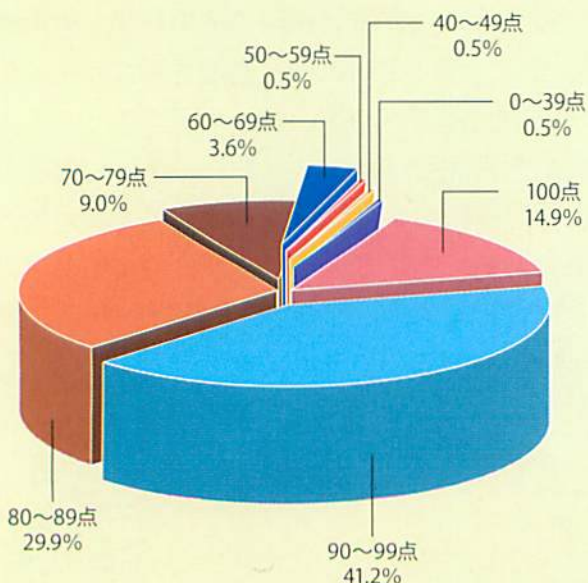
徳世 良重



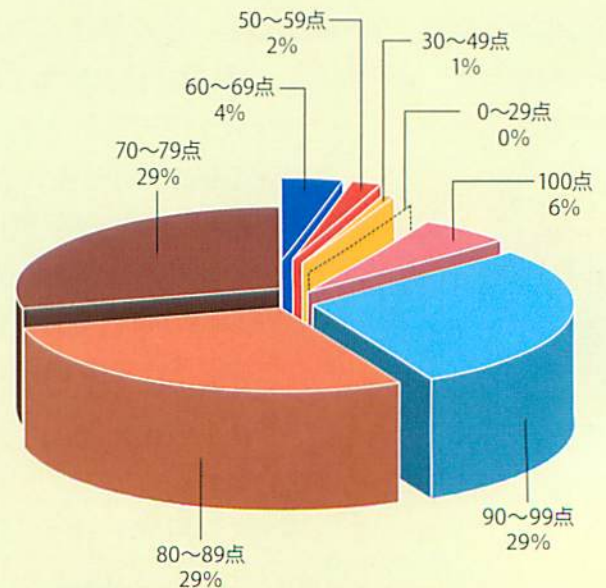
患者満足度調査は、病院職員が患者さんにとってやさしい対応をしているのかを評価するために、毎年1回実施しています。平成22年度からご協力をいただいた皆様にその結果をご報告させていただくことにしました。患者満足度調査の結果をさらに活かし、限られた資源の中で、創意工夫をしながら、患者さんにとってのよりよい病院をめざしていきたいと思っております。

調査結果報告(一部抜粋)

●100点満点で評価すると今回の入院は何点をつけていただけましたか？



●100点満点で評価すると今回の外来は何点をつけていただけましたか？



薬 剤 部 の 紹 介

がんセンター薬剤部は、現在常勤薬剤師13名と臨時薬剤師（パート）2名、臨時事務職員（パート）4名で業務を行なっています。がん治療のため、私たちは、安全で安心なお薬を使用していただくため、患者さんにわかりやすく正確な情報を提供することを第一に考えて業務を行っております。

また、医師や看護師などのスタッフと連携し、感染対策チーム（ICT）、栄養サポートチーム（NST）、緩和ケアチーム（PCT）などの医療チームにも参加し医薬品の情報提供を行っております。

薬剤部では、次のような業務を行っております。



薬剤部
部長

岩崎 文男

1. 調剤業務

この業務は、処方せんの薬を調剤して患者さんに窓口でお渡ししている仕事として皆さんが思い浮かべる仕事です。処方せんの内容について、用法や用量、処方日数、飲み合わせなどの確認作業を行なって不備や過誤がないか複数の薬剤師でチェックしています。平成12年9月より院外処方せんの全面発行を行っております。このため、当センターの外来患者さんについては、大部分を院外処方せんで対応しているため、主に入院患者さんのお薬の調剤を行っております。

2. 注射薬業務

注射処方薬を調剤して病棟で患者さんに投与できるよう準備する仕事です。ここでも、複数の薬剤師によって注射せんの内容について、用法や用量、処方日数、併用可能かなどのチェックを行なっています。

3. 注射用抗がん薬の調製業務

抗がん薬は、がん細胞に効果がある薬ですが正常な細胞にも影響の出る薬です。そのため注射用の抗がん薬の調製は危険性も高く正しい手順で調製を行なう必要があります。専用の調製場所でガウンなど防護服を着用して安全に作業を行っております。

4. 服薬指導業務

病棟にて、患者さんに服用や投与される薬について薬効や副作用、服用方法、服用の必要性について説明を行ない、薬に対する疑問や不安にお答えしています。このほか、服用されている薬の副作用が出ていないか確認するため個々の患者さんに面談してお話をさせていただいています。

5. 医薬品情報提供

薬の治療効果や副作用などの情報を収集、整理し、患者さんや医療スタッフに提供し、より質の高い薬物療法をサポートしています。

このほかにも、市販されていない製剤の調製や、薬品の管理、新しい治療法にかかわる治験や臨床試験への協力も行っております。薬剤師は、4年制から6年制へ薬学教育が変わり一層活躍が期待されています。今後も患者さんのため、内服薬や注射薬の薬物療法が安全に行なわれるように医薬品の適正使用に努めてまいります。



がんセンター臨床腫瘍研究所では、がんの臨床に役立つことを目指した研究をおこなっています。その研究は科学であり、国際的に通用するものでなければなりません。一方、埼玉県民の皆様へ、研究所として役立つことの一つは、がんやがん医療の情報を提供して、皆様と共に考えることではないかと考えました。これまでも、がんセンターでは、がんの治療やケアなどを解説する「がんの集い」を毎年、秋に開催しています。今回は一般県民の皆様も対象に、もっと広い視野でがん医療の問題を考えるフォーラムを研究所が中心となって企画し、4月の科学技術週間に合わせて開催しました。同時に、研究所でおこなっている研究をポスターで展示しました。

今回のフォーラムは「がん哲学と豊かさを求めて～医療・研究・ケア・県民をつなぐ～」というテーマで、樋野興夫順天堂大学教授が「がん哲学&がん哲学外来～がん医療の懸け橋～」、暉峻淑子埼玉大学名誉教授が「病気と私たち」という講演をしてくださいました。4月17日（土）、埼玉県県民健康センターの会場に252名の方が参加してくださいました。来賓の埼玉県医師会長、金井忠男様が、参加者が非常に多いと感想を述べられました。講演の間にはボランティアによる音楽演奏があり、石井様のテノールに皆さんが感動しました。質疑応答では、一人の患者さんが「次回は、がん患者自身も主体的に参加し、患者の心の問題やがん医療の問題について話したい」と、参加された患者さん達の思いを代弁されました。アンケートには206名の方が答えてくださいました。今回のフォーラムは「講師の組み合わせがおもしろい。がん医療を人がどう生きるのかという視点で問題提起されたことが意義深い」と評価していただき、多くの方（92%）に満足していただきました。しかし、これまで34回も開催している「がんの集い」を知らない方が70%もありました。今回のフォーラムは、「がんの集い」の広報にも役立ちました。多くの方（79%）に研究紹介のポスターをみていただきました。講演とポスター展示によって、がんの研究に対する興味や関心、理解が深まったと皆さん（87%）が回答してくださいさり、研究所全員の努力が報われたと感じました。今回、埼玉県医師会、埼玉県健康づくり事業団、さいたま市、伊奈町のご後援をいただきました。



皆さんが感銘してくださいました

（臨床腫瘍研究所 富田幹夫）

（臨床腫瘍研究所 富田幹夫）

交通のご案内

ニューシャトル丸山駅から徒歩5分
 JR高崎線上尾駅からバスで約15分
 JR宇都宮線蓮田駅からバスで約15分
 ※交通事情により異なります。

埼玉県立がんセンター

住所 〒362-0806
 埼玉県北足立郡伊奈町小室818
 TEL **048-722-1111**
 FAX 048-722-1129
 URL <http://www.saitama-cc.jp/>

診察日 土・日・祝日・年末年始（12月29日から1月3日）を除く毎日。
 ※診察科によっては診察をしない曜日があります、ご予約の上ご来院下さい。

診察予約 当センターは予約制になっております。受診の際はあらかじめ電話によりお申込みください。
 受付時間：平日 午前8時30分から午後5時まで。
 電話番号：048-722-1111 総合受付予約係

面会時間
 平日：午後3時～午後8時
 土・日・祝日：午後1時～午後8時